

蛍は英語で firefly、大変直接的な表現ですね。今年はどうご覧になりましたか？

【祇園祭】 正式名は^{ぎおんづりようえ}祇園御霊会。神泉苑^{しんせんえん}で貞観5(863)年に初回が行われたとの説あり。もともとは怨霊・悪霊を鎮め、疫病を封じるための神事です。単なる祭ではなかったのです。

昔は怨霊が病気を流行らせると考えられていたんですね。怨霊の最たるものが^{さわらしんのう}早良親王。この方は桓武天皇の実弟です。長岡京での藤原種継暗殺事件を覚えておられますか？(前回は早親親王と書いてしまいましたが誤りでした。読みもサワラシンノウが正しい。失礼しました。)早良親王は首謀者の一人として逮捕されて、淡路島へ配流される途中で亡くなったのです。無実を訴え、絶食という抗議行動が不幸な結果となったのです。天皇の弟さんが恨みを残したまま亡くなり、だから祟りとなって現れるという恐ろしい存在なのです。何とか鎮めたいと思うのも理解できますよね。片や疫病の方ですが、これも都として人口増加・密集化が進む一方で、今日ほど下水や衛生処理が万全ではないので、蔓延する危険は孕んでいたのです。バタバタと人が倒れていく。時の清和天皇(桓武天皇の玄孫で源氏の祖)は青ざめたでしょうね。そこで儀式が営まれました。今日風に表現すると、坊さんが加持祈禱を行い雅楽が吹奏され、併せて舞もとり行われたらしい。幸いにも疫病は次第に治まりましたので、以降疫病が流行る度にこうした神事が行われました。

初回場所は神泉苑で、以降は都周辺の葬送地で行われましたが、ある頃より疫病神・牛頭天王を祀る祇園社(現在の八坂神社)が中心となりました。これが祇園御霊会の起こりです。さらに100年後の円融天皇の代以降は、戦乱中の中止はあったものの毎年恒例開催され、今日に至っております。山鉾の原型のようなものが登場してくるのはずっと後代、室町幕府になってからです。それにしても桓武天皇さんは祇園祭の遠因も作ったわけで、平安京は彼抜きでは語れませんね。

さて最初は官礼、即ち政府主催であったのですが、室町呉服商を中心とした町衆がどんどん参画するようになります。最新モードを展示したり町内に伝わる縁起物を飾ったりと、次第に華美の様相を強めていきます。応仁の乱以降1500年頃よりは特に顕著で、今日の山鉾の原型26基が登場してきます。現在では、鉾が9基、山が23基の合計32基が華やかさを競い合っています。現在では、7月15日の宵々山、16日の宵山、17日の山鉾巡行だけが目立っておりますが、実際には1日の^{きつぷ}吉符入りに始まって、31日の^{なごし}夏越祭まで1ヵ月間、様々な行事が営まれております。

神事の中心は、山鉾巡行と平行して行われる^{みこしとぎよ}神輿渡御です。とは言っても、山鉾巡行が午前中に終了し、午後四時になってから神輿が八坂神社を発ち、市内を練り歩きながら進みます。つまり大半の方が『今年の祇園祭も終わったなあ』と家路につかれておられる頃に、祇園社の神さんが神輿に乗せられて市内の^{おたびしよ}御旅所(四条寺町)に移動されます。これが神幸祭。そして1週間後に再び神輿に乗って戻られるのが環幸祭です。神事の中心が後になって、本来は付属物の山鉾巡行がメインを張るようになったんですね。まあこれも、京の町衆の結束の証でもあり、祭礼というものが時代と共に変容する好例でもあります。千年以上も続くためには、これくらいの柔軟性が無ければ到底無理ですね。いずれにせよ、神輿渡御もけっこう見応えがあり、マニアックな方はご覧になるようです。因みに神輿は3基で、牛頭天王、^{はりさいじよ}婆梨采女、八王子の3体となっています。この辺りの詳細は、中公新書『中世京都と祇園祭』(著者:脇田晴子)をぜひご参照ください。

祇園祭の楽しみ方而言え、宵山以前にもあります。13日が一番よろしいかと思いますが、鉾立て(つまり組み立て)をしております。よくご覧になりますと、縄で縛り上げるだけで釘を1本も使わないのが分かります。伝統の熟練の技であります。更には、お囃子の練習の音が一段と熱を帯びてきます。山鉾巡行がまじかに迫っておりますので。耳のよい方と申しますか、音楽に明るい方はお囃子を聞き分けてみてください。いくらか共通部分はあるものの、町内ごと山鉾ごとに違っており、前部で30種近くあるのですよ。その気があれば録音するのも手でしょうか。

ところで山鉾巡行の順番はくじで決めます。最前列の長刀鉾と最後尾の南観音山だけは決まっておりますので「くじ取らず」と称します。今年も2日にくじ取り式が挙行されますが、私は拝観券を入手したので見学してきます。また、南観音山の拝観券も入手したので、15日には僅かな時間ですが登ってきます。帰りには、魔よけの「ちまき」をいただけることになっています。余談ですが、最近では女人禁制ルール(鉾に登れない、登らせない)が変わりつつあります。南観音山は昨年に引き続き女性も鉾に登り、お囃子を鳴らします。物議はかもしておりますが・・・。

また私事で恐縮ですが、私の誕生日は19日であったものですから、親からは祇園祭が誕生日だよと教わりました。それで小学生の頃、先生から誕生日を聞かれた時に、祇園祭の日ですと答えたら、「あら、中西君は19日だから祭りの日ではないわね。」と言われ、幼い心を傷つけられたことを思い出します。正確なことだけが決して良いとは限らないと、後年になって得心しました。

【神泉苑】 中京区御池通神泉苑通（二条城の真南です。史跡・二条陣屋もすぐ近くです。）

現在でもそれなりの広さがありますが、平安京では今の5～6倍の広さがあり、天皇さんが時折り遊園を楽しまれた池が現存しております。敷地内には、しゃぶしゃぶ料理の祇園平八が営業しており、また神泉苑幼稚園があります。私はこの幼稚園の卒業生？なのですよ。とんでもないところで幼少時代を送っていたのですね。「神泉苑の池の面に、亀や緋鯉が泳いでる。小鳥も明るくさえずって、明るい明るい幼稚園。」はその幼稚園の園歌です。よく覚えてますよ。

私が小学生か中学生の頃までは、苑内の奥のほうへも自由に入れまして、赤胴鈴之助が主人公のチャンバラ映画撮影をしていたこともありますね。赤胴鈴之助、すごい響きですねえ。これはある一定以上の年齢の方しか分らんことでしょうね。俳優が誰だったかは忘れちゃった。池の真中には島があり、アヒルの巣があった。卵を見に渡ろうとして、さすがにこの時ばかりは管理者に大目玉を食らいました。残念ながら、今日では手前の方だけで奥へは入れません。

毎年5月1日～5日の間は祭りがあって、露天・屋台が所狭しと出店します。金魚すくい、スマートボール、冷しあめ、綿菓子、たこ焼き、キャラメル焼き、などなど。僅かなお小遣いを握り締めて毎日通いましたねえ。3日からは無料で狂言見学ができます。長じては、これが楽しみでした。滑稽な仕草が愉快でもあり、『土蜘蛛』という題などは、細いテープを糸の様に撒き広げますので、ここでドッと歓声が沸くのです。“早く撒け”などとジリジリ待ってました。今でも祭りは賑やかに続いておりますので、機会があればどうぞいらして下さい。

【上御霊神社】 ^{かみごりょう} 上京区上御霊前通烏丸東入ル。（地下鉄烏丸線・鞍馬口駅より徒歩5分）
早良親王はじめ8体を祀っています。
応仁の乱（1467年）勃発の地としても有名です。

【下御霊神社】 ^{しもごりょう} 中京区寺町通丸太町下ル
早良親王はじめ8体を祀っています。

【お店紹介】 普段でも、あるいは祇園祭に合わせて来られた時でも。一度お試しあれ。

山鉾巡行を御池通りで見学された場合は、本店が近くて便利です。

本家尾張屋・・・蕎麦屋です。本店は押小路通り車屋町通り上ル。（烏丸御池の東北あたり）

本店はハイヤーで乗りつけるような格式ある古風な造りです。よく知らない、入って行くには勇気が要りそうな構えです。

別途店舗は四条新京極の南沿い（地下）にもあり。これはまあ普通。

値段は少々張る（¥1,800）が、「蓬菜そば」を発注して欲しい。四～五段重ねのそばに、別段の具（小型エビ天、金糸、のり、ゴマ、味付しいたけ）をトッピングしてから、かけつゆでいただく。案外腹持ちはいいですよ。通常のそばやうどんとかもあります。蓬菜が私のお奨めです。

「蕎麦ぼうる」とかの土産用菓子も販売しており、これも美味でお奨め。

前回のクイズの問題と回答：正解者は2名でした。ご応募ありがとうございます。

問題《森と林はどのように意味が違うか？ 当時は厳然と区別されていたのですよ。》

回答：生物学・植物学的な回答もいただきましたが、これは残念ながら不正解とします。

正解は、人工的に開発の手が入り、私有地化が進んだ所が林で、そうでない所が森です。政治的・経済的な側面であり、土地所有権や税の徴収、後の荘園の増加等が絡んできます。生産の源であった土地が財産化してくる訳です。